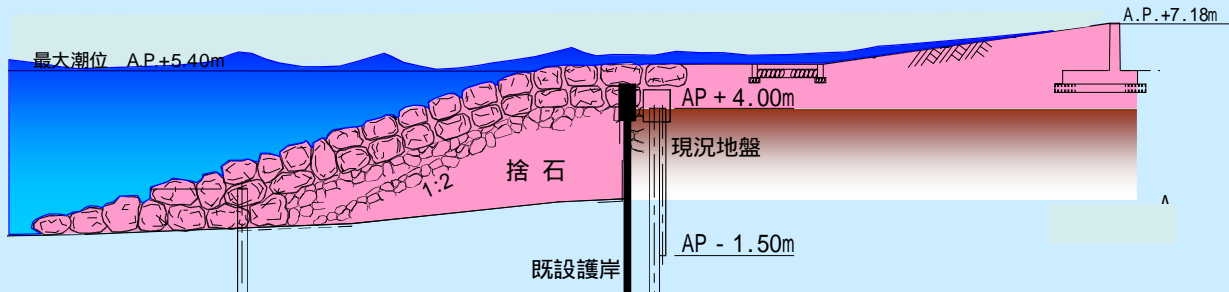


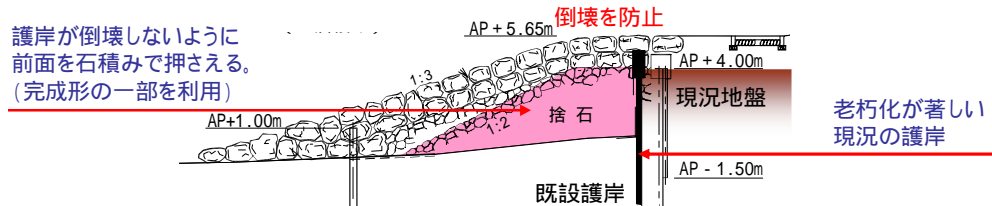
工事から 3 年後の検証・評価 < 防護 >



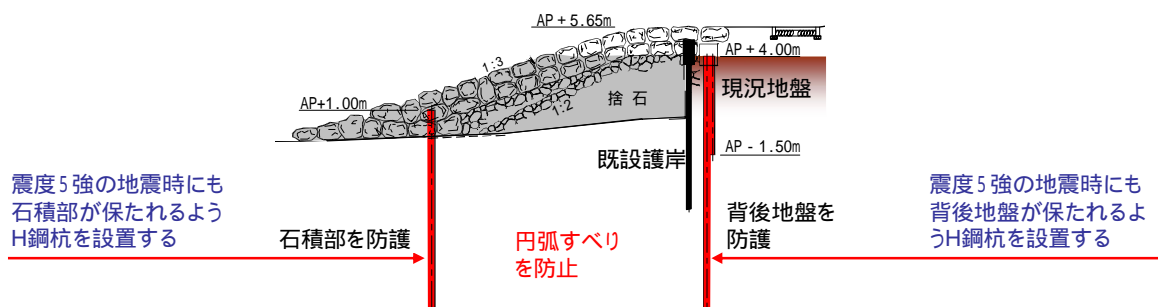
平成 2 1 年 1 1 月

1. “防護”に対する 4 つの指標

“緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。

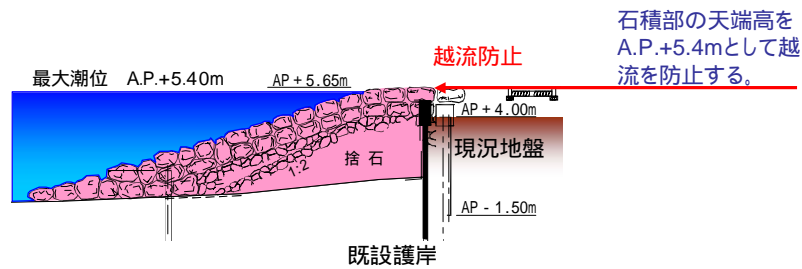


“耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度 5 強の地震時にも石積部が保たれるよう H鋼杭を設置する。
“ 背後地盤が ”

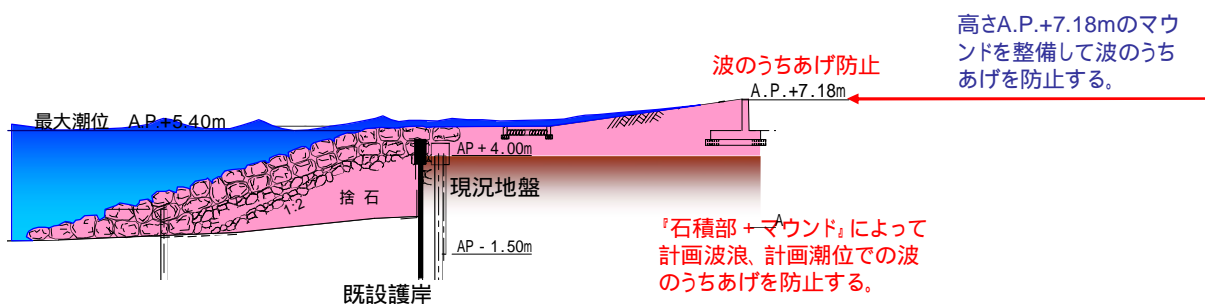


最大潮位での”越流防止”への指標

： 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



”高潮災害防止”への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようにA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



3

2. 検証基準

目標達成基準

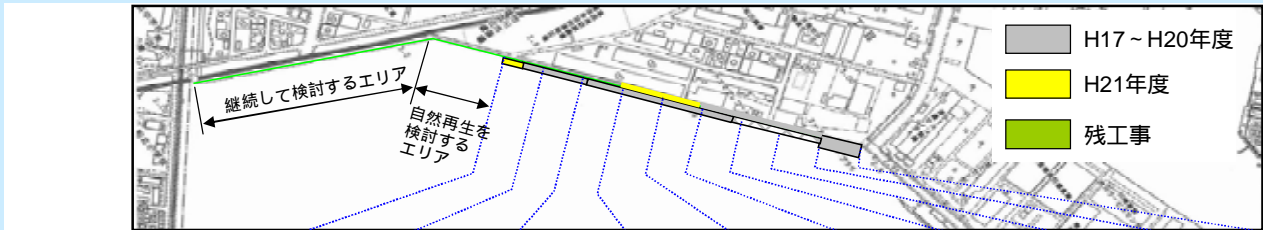
高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成22年度頃	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長900mにわたって、 緊急対応への指標 100% 耐震の指標 100% 越流防止への指標 100% 高潮災害防止への指標 - を確保すること。

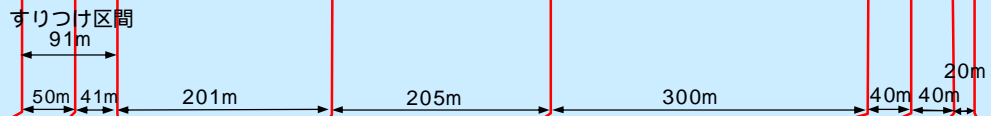
注) のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、後背地の街づくりと調整中であるため、数値目標は設定しない。

4

3. H21年度工事の検証結果(工区ごと)



工種・箇所区分															
海域工事	捨石+H鋼杭(倒壊防止)	50m	41m			806m									
	被覆石(パリエーション)	(H鋼杭なし)								40m	40m				
陸域工事	H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)					205m		300m		80m					
	被覆石(パリエーション)									40m	40m				



	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況
緊急対応	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%
耐震(H鋼杭:海陸)	無し	0.0%	無し	0.0%	海側のみ	50.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	海側のみ	50.0%
越流防止(+5.4m)	0m	0.0%	4.0m	74.1%	4.0m	74.1%	4.0m	74.1%	4.0m	74.1%	5.4	100.0%	5.4m	100.0%	4.0m	74.1%
高潮災害防止(+7.18m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

上記 ~ の各評価については、(区間ごとの進捗率) × (区間延長 / 全体延長) の合計で算出します。

4. H21年度工事の検証結果(指標ごと)

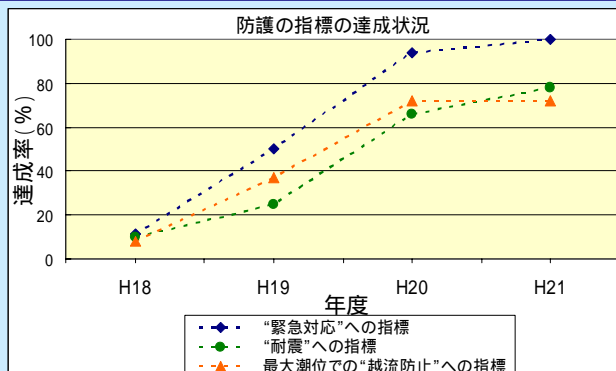
"緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 **100 / 100(完了)**

"耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
" 背後地盤が " **78 / 100(予定)**

最大潮位での"越流防止"への指標 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。
72 / 100

"高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。
後背地との調整中

施工年次毎の
達成状況



5. H21年度工事の評価

目標達成 基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。
------------	---------------------------



検証結果	”緊急対応”への指標	100 / 100完了(94 / 100)
	”耐震”への指標	78 / 100予定(66 / 100)
	最大潮位での”越流防止”への指標	72 / 100 (72 / 100)
	”高潮災害防止”への指標	背後地の街づくりと調整中

注)カッコ内はH20年度



防護の 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・”緊急対応”が完了、”耐震”が12%向上予定、”越流防止”については前年度と同様であった。 ・効率的で効果的な工事の進め方について、周辺環境に配慮しつつ検討していく必要がある。 ・ “高潮災害防止”への指標についても、背後地の街づくり計画との調整を進め、高潮災害に対する地域の安全確保を図る必要がある。
-----------	--